

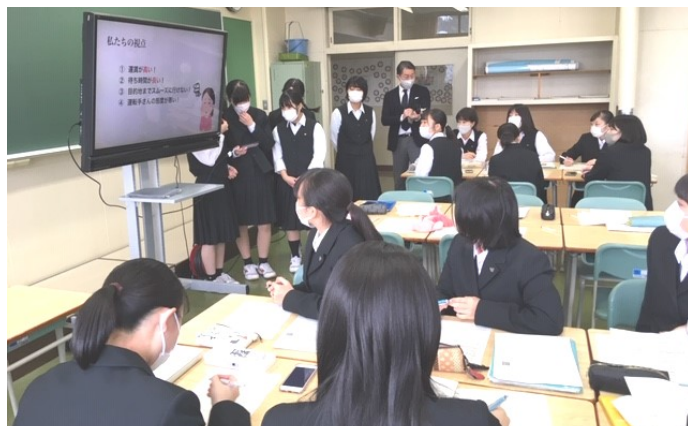


北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL: 0155 (37) 5501
発行日 令和2年11月30日

新しい学びの創造に向けて地域連携研修実施

本校では、保護者・地域・行政と連携・協働し、学びの質を変えることにより学力の向上と進路実現を目指す『学びの三乗計画』を推進しています。これは「主体的・対話的で深い学び」「人間性を育てる学び」「社会に直結した学び」を系統的・有機的に進めることで生徒の資質・能力の向上を図ろうとするものです。今年度はその第一歩として、小・中・高5校を地域連携校とする「地域連携研修」を展開し、探究活動の推進を図っているところです。

その取組の一環として11月2日に地域連携研修公開研究会が実施されました。午前中は3年学校設定科目「自己表現」の授業を公開。この授業では「十勝のまちづくり」をテーマに十勝振興局・帯広市職員を招き、地域の抱える6つの課題（まちのツボ・まち育て・公共交通・都市景観・都市防災・人手不足の解消）について理解を深め、その課題解決方法と理想とするまちのあり方について各グループで検討してきました。その内容をまとめて発表しました。その中には地域発信について高校生の発想を活かしたらどうかという提案や、市内巡回型バスの提案などがあり、今後はインタビューやアンケートを実施して最終的な提案をする予定です。



午後は、國學院大学の田村学教授の講演でしたが、教授は1時間目の本校の授業を参観し、生徒にインタビューをして授業に対する思い等を確認したうえで講演してくださいました。その中で、活動を通して理解を深めること、探究活動を推進する組織をしっかり作ること、身につけさせたい資質能力を伸ばす活動を学校の中で決めることの重要性を説いておられました。本校においても授業改善に向けて引き続き取り組んでいきます。

PTA社会部下校時実態調査

17日にPTA社会部下校時実態調査が行われました。試験準備期間で迎えにくる車で一番混雑する時期です。自転車や徒歩の生徒と迎えに来る車で錯綜する校舎前は、ちょうど暗くなる時間帯で危険だというご指摘をいただきました。また校舎前ロータリーに入りきらず白樺通りまで車が並ぶ状況です。迎えに来た車の生徒は速やかに下校するよう放送も掛かりましたが、渋滞はなかなか解消されませんでした。

試験期間時期は本校駐車場を空けておりますが、いかなせん本校から白樺通りまで車が渋滞すると駐車場まで行き着くこともできません。また、登校時のことですが、並んでいる車を強引に追い越し危険な状況であったという連絡もありました。翌日、生徒には保護者の方と連絡を取り合って停車時間をできるだけ短くするよう指導したところですが、時間を少し変えての送迎等にもご協力いただきますようお願い申し上げます。



学校評議員会でのご意見

今年度コロナ禍により開催することができなかった学校評議員会ですが、5日に第1回を実施しました。今年度の評議員の方々は次の通りです。

伊藤 進 様（帯広市西地区民生委員会会長）
嶋野 幸也 様（白樺学園高等学校長）
成清美智子 様（クリーンヘアシステム会社役員）
川端 和仁 様（川端商会代表取締役）
佐々木涼太 様（弁護士）

皆様方から出た意見として

- ・新型コロナウィルス感染拡大防止の徹底をすすめてほしい。
- ・生徒の学ぶ意欲と学力の向上に図るよう学校力の向上のため授業改善を継続してほしい。
- ・教職員の負担軽減を図り働き方改革を進めてほしい。

その他、多岐にわたって具体的なご指摘やご意見を賜りました。早速、教職員には詳細を伝え共有したところです。今後の学校運営に活かしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

第7回 総務部長 小林 聖明 教諭

情報は正確なものを自ら手に入れることが大事

◆情報収集はとても大事

数学の教員になりたいということは自分の中で決まっていた。でも、教育学部に進んだら型にはまった教師になってしまうような気がしていました。だから教育学部は自分の進路から外していました。そして大学に行くからには国立大学としたい理由もなく決めてました。バスケット部顧問から私大の練習に行けと願書を持たされました。今で言うセレクションだったのですが、自分は進学する気がないのでただ行って練習しただけで受験しませんでした。結局、国立大学受験に失敗してその大学に行くことになるのですが、その際も新しく情報処理を学べる学科が新設されるということを聞き、これからは情報の時代だ、数学も生かせると進学。でも実際は工学部で金属分析とか実習が大変でした。中学免許も取得するつもりだったのですが、免許法改正に合わせた対応をしておらず、結局取得できずに終わりました。ホント、情報は自らしっかり求めなくてはいいけません。

◆教員として北海道へ

大阪出身の私は北海道に縁もゆかりもない人間です。当時の大阪の教員採用試験は90倍。東京受験できる北海道も受験したのですが、採用の際は交通の便のよいところを希望して、その返事が「帯広も釧路も1時間。札幌なら1時間半だ。」地理がまったくわからなかったのも、それなら大丈夫だと赴任したのが足寄。やっぱ

り情報は重要ですね。

とにかく寒いということはわかっていましたが、どう対処すべきかわかっていませんから、冬になったら洗濯機に水を入れたまま凍らせたり、食器洗剤が凍って容器から飛び出したりして本当にビックリしました。言葉も困りました。相手のことを言うときに「自分」が通じません。それで「おまえ」を使うと今度は「何を偉そうに」と言われ、じゃ何を使えばいいんだと本気で悩みました。関西の「おまえ」はそんなに見下す感覚はないんです。結局「あんた」を使っていますが、これ大阪で使うとまた違うニュアンスになってしまうんですね。

◆文武両道を実現している三条生に感服

三条高校生は文武両道をしっかりやってくれています。そしてそのことに誇りを持っています。本当にすごいと思います。私は生徒たちに「よい習慣をつけなさい」とよく言っているのですが、逆に生徒に教わることもあります。今年卒業した生徒で、いつも笑顔で挨拶してくれる生徒がいました。ただ言葉を交わすばかりではなく、笑顔での挨拶が本当に人を気持ちよくさせるものなんですね。ですから、私の習慣になるよう努めています。何事も自分で考え、気付いたときにすぐ行動に移すことが大切ですよ。



三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

インタビュー

きらり

生徒会長として奮闘する

2年1組 小西 莉緒さん



10月9日の立会演説会を経て新しい生徒会長に信任された小西莉緒さん。コロナ禍で生徒会活動も制限された中で難しい舵取りを任せられました。

新会長としての抱負を聞かれて「生徒と生徒会の距離感を縮めるために、生徒会通信『以心伝心』

を通して、生徒会の動きや思いをどんどん発信していきたいです。」と力を込めます。中学時代にHR委員長や行事のリーダーを務めた経験から、人のために動く生徒会に興味を持ったといいます。そして三条高校入学後、迷わず執行部に加入。当時の生徒会長さんの人の意見をまとめあげる力と細かな心配りからなるリーダーシップに憧れて、いつか自分もそんなリーダーになりたいと思ったのだそうです。もう少しで2ヶ月になろうとする生徒会長としての自分を振り返って、「まだ会長としての自覚が足りません。先輩方がまだいらっ

しやるのでつつい頼ってしまっています。」と厳しい自己分析です。「これから生徒会誌『潯標』を作成していく段階で自分の意識をあげていきたいです。」と先の見通しをしっかりと示してくれました。

小西さんから見る三条高校生の特長は「やるときはやる。勉強も、部活動も、行事も手を抜かずしっかりやります。みんな大変だと思おうのですが、みんなも頑張ってるんだと思うから、自分も頑張れるんだと思います。その一体感が三条にはあるんです。」と笑顔で答えられました。では三条生に求めたいことは何かを尋ねると、「強いてあげるとすれば、もっと積極的に自分の意見を言ってほしいと思います。」とのこと。これは小西さん自身も「授業中は自分も言えてないんですけど」と笑っておりました。でも、生徒会長として様々な機会

で話をしなくてはならなくなって、しっかり自分の考えを伝えることの重要性に改めて気付いたのだとか。将来も人の役に立てる職業に就きたいと話す小西さん。これからの経験が生きることは間違いないですね。

